

ゆうりんだより

2019.04

Vol.29

新年度に向けた、中央有鄰学院の進むべき方向性について

社会福祉法人中央有鄰学院 理事長 那須野 康成

平成 30 年度におきましては、中央有鄰学院に對しまして、関係者の皆様から何かとご支援、ご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

さて、元号も平成から令和となり、新たな年を迎えることとなりました。社会福祉法人 中央有鄰学院も創立以来百十七年を迎えます。中央有鄰学院の有鄰とは「必ず仲間がいるよ」を意味しています。そして、7つの理念と7つの基本方針、職員の倫理綱領の基、中央有鄰学院に生活する子どもの一人ひとりの成長と発達を考慮し「子どもの最善の利益」を追求し、めまぐるしく変化するこの社会の一員として立派に自立することを願って、職員一同全力で支援していく所存です。

今、日本社会は少子高齢化が進み危機的な状況におかれています。特に子ども側からすると、家庭の経済的貧困、児童虐待、ひとり親家庭の増加、いじめ不登校の増加、共稼ぎ夫婦の育児時間の減少による愛着関係の希薄化など、決して子ども達が幸せな家庭生活を送っているとは言えない現状となっています。

そのため家庭生活を中心として、居住地にある専門機関や専門職員を中心にチームワーク体制で、子ども・子育て支援を行う地域が多くみられるようになりました。中央有鄰学院もその専門機関の一員として、地域住民との連携を大切に、地域に開かれた施設運営を行っていきま

す。

本年度の具体的な方針として、職員間の配置換えを積極的に行います。それにより仕事のマンネリ化を防ぎ、常に新しい感性で、子どもが安心し安全な「心の居場所」となるよう支援を目指します。

また、乳児期、児童期、思春期、青年期と子ども達のライフステージが保障できる施設として、中央有鄰学院は存在しています。それゆえに、子ども一人ひとりのライフステージを考え、切れ目のない貫いた発達の保障と自立支援を実践していきます。

地域貢献事業として、「ふれあいセンターおおだか」を今年度も実施します。地域の子育て中の母親の集いの場、交流の場として子育て支援を行います。さらには地域ニーズを把握し、将来を見据えた新規事業にも取り組む所存です。

中央有鄰学院の主役はそこに住む子ども一人ひとりで、そのためにも職員が気持ちを新たに、仕事に対する責任感と緊張感を持ち、子ども支援を行っていきます。

以上、新年度に当たり、主な方向性を示しました。皆様におかれましては、社会福祉法人 中央有鄰学院に對しまして、温かなご支援と、厳しいご意見等お聞かせ頂ければ幸いです。今後とも、よろしくお願いたします。



就任ご挨拶

ゆーりん施設長 小尾

康友



今年4月より児童養護施設ゆーりんの施設長に就任いたしました小尾康友です。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

私は児童養護施設ゆーりんで働き15年となります。まだまだ勤続年数は浅いですが、その間の経験は濃かったと思っています。この15年間、児童養護施設とは何か、児童福祉法41条では「自立を援助する施設」とあるが自立とは何か？考え続けてきました。自立はそれぞれの施設によつて考えが異なり、それぞれの人によつても考えが異なります。

皆さんはどうでしょうか？

児童養護施設から18歳で巣立った2人の例を紹介します。

一人は施設にいる間、ルールを守り、掃除、洗濯を自分で行い、施設の中で過ごすことが多いのですが、バイトは休まず行い、学校は皆勤賞、成績もよく、収入が高いい企業に就職しました。

もう一人は、ルールを守らず、掃除、洗濯は職員任せで、友達と夜遅くまで遊び回り、学校は遅刻する、赤点をとる、バイトを始めるのに腰が重く、短期大学中退を経て就職しました。

就職後にどうなったかと言うと、前者の子どもは就職して1週間後に会社より「出勤してこない。連絡が取れない」と施設に連絡が来しました。施設では言われた

ことを行う「いい子」でしたが、就職して一人暮らしをしたときに、自分で考えられず、周りに頼ることも出来ずに引きこもってしまいました。

後者の子どもは継続して働くことが出来ました。施設にいる時から自分のやりたいことを行い、職員ともぶつかる子でした。そのために、社会での様々な課題を自分で考えて対応し、分らないことは周りに頼り乗越えることが出来ました。また退所後の金銭管理、料理、掃除を含めて生活習慣能力も後者の子どもの方が高かったです。

これらの例を見ると自立の援助では何が必要で、何が大切か考えさせられます。

ゆーりんでは、その名の通り「隣に有る」(有鄰)を理念としています。誰かに頼れること、ヘルプが出せることが自立の土台と考えています。それが出来れば何とか生きていけるのではないかと思います。

新体制となつても継続して理念の具現化へと向かい、目の前の子どもたちから退所した子どもたちを含めて「隣にいる」存在となれるように努めていきたいと思っています。

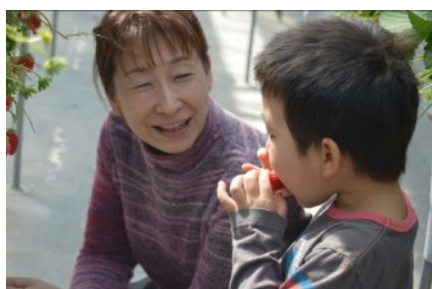
まだまだ未熟な部分が多くありますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



子どもの目線になってみると
いろいろな発見があります
歩みを合わせて
一緒に笑って
気持ちを共感して…
子どもたちとともに
成長できた一年でした
季節はもう春
出会いも別れもある季節です



ほだか



豊明消防署



元気な赤ちゃんを生んでね





ふれあいセンターおおだか 〜ちびっこのつどい〜

ママ講座「うたとリズムのワークショップ」



クリスマス会



ママ講座「かんたんにできるおやつ作り」



3月に入っても寒い日が続き、春はいつくるの？と待ち望んでいたら、先日プラントのチューリップが綺麗な花を咲かせました。1組の親子が花を覗き込んで、「きれいだね」「チューリップのお花だよ」と子どもに話しかけていました。子どもにとっては、「きれい」という言葉は分からない年齢だったと思いますが、目の前にある発見や感動を素直に表現し子どもに伝えるという事は大切な事だと思っています。きれいな言葉を沢山使って子どもに聞かせることは、子どもも心地よい優しい気持ちになることでしょう。

最近では、ハイハイや伝い歩きが出来るようになった1歳未満のお子さんの利用も多く、ふれあいセンターの広い室内を思う存分動き回り元気に過ごす姿が見られます。3月末には、幼稚園や保育園に入園する友だちを送るお別れ会をしました。この「ひろば」でたくさんさんの友だちと関わり経験したことが、園生活の中で子どもたちの成長を促すきっかけになってくれれば嬉しいです。新年度からも、皆さんに喜んでいただけるような「ひろば」を提供していきたいと思っています。



自立援助ホーム

きょうわ



自立援助ホームでは3つのルールがあります。きょうわでは「仕事をする事(学校)」「利用料を納める事」「自立のための貯金をする事」を掲げ、社会で生きていく準備をしています。

最近、自立援助ホームの生活を終え、退所した子どもと接する機会が多くありました。出産し赤ちゃんを連れてきょうわに遊びに来てくれた子、リーダーとして仕事を任せてもらってる!と報告しに来てくれる子等、とても嬉しいニュースがたくさん入っています。

中には、退所後仕事を継続して頑張っている対人関係に困難を抱えてしまったり、仕事を辞めてしまい生活がままならなくなってしまう子もいます。

それは決して本人の甘えや努力が足りないからではなく、過去に「食事し寝ることのできる当たり前の生活を送れなかった」ことや「安全な場所が保障されてこなかった」ことなどとも大いに関係していると思われます。

さまざまな過去・経験を抱えた子どもが、経済的にも精神的にも自立できるよう、職員も共に学んで支援していきたいと思っています。

この時期のきょうわには、たくさん水仙の花が咲いています。強い雨や風にも負けず凛と咲く水仙は、きょうわの子ども達、職員にもエールを送ってくれているように感じています。



地域小規模児童養護施設

かえで



この年度末、授業で生い立ちに触れるなど、自分の家庭について改めて悩んだり、寂しさを実感したりする子が多くいました。学校の友人とは異なった家庭環境、つらい経験も多くしてきた子どもたちです。「お母さん元氣かな」と気にしてみたり、「お友達の家はね」と比べてみたり、家族に関する話題を出すことも多くありました。本人たちなりに葛藤し、色々なことを思い出し考えていたようです。その小さな体で精一杯向き合い、乗り越えていく姿が多くありました。

私たち職員も、話を聞くたびに色々なことを考えさせられます。共感し受け止めることの大切さを感じるとともに、この仕事の難しさや、職員ができることの限界に対するもどかしさを感じます。その一方で、子どもたちから「かえでの生活は楽しいよ」「ここに來られてよかった」と言われたときには、嬉しさや安堵が入り混じったような気持ちになります。

3月、かえででは小学生と中学生が一人ずつ、学校を卒業しました。この4月からは新しく中学生、高校生になります。今まで知らなかった世界に不安を抱えると同時に、大きな期待を膨らませているようです。他の子どもも含め、新しい何かに挑戦することや大きな壁にぶつかることも多々あることと思います。私たち職員も共に、たくさん悩んでたくさん笑って、成長して行けたらと思います。



雛祭りには、立派なお雛様を飾りました。

厨房



児童養護施設ゆうりんでは、毎年3月に子どもたちの進級をお祝いする【大きくなったね会】を行っています。この日の夕食は、進級する子どもたちのリクエストに応じてメニューを考えています。

昨年度からはビュッフェスタイルにして、子どもたちが自分で食べたい料理を取りに行く形をとっており、今年度は、ピザ・手まり寿司・ローストビーフ・グラタン・フライドポテトなどを作りました。子どもたちが嬉しそうに料理を選んでいる姿や、参加しに来てくれた卒業生からの「ゆうりんのご飯おいしいよね!」という言葉がとても印象的でした。そして、今年度で施設を退所する高校生たちからは「今までおいしいご飯を作ってくれてありがとう」と、感謝の思いを届けてもらうこともできました。

毎年この行事を迎えるたびに、子どもたちの成長、そしてこの仕事をしていて良かったなどやりがいを感じます。これからも、子どもたちにおいしいご飯を提供していきたいと思っています。



職員紹介



ゆうりんケアワーカー

神谷 弥幸

●どうして児童養護施設で働こうと思ったのですか？

大学2年生の実習で、初めて児童養護施設に行って施設の子どもと関わる機会がありました。実習では十日間という短い期間だったのですが、子どもと関わる中で児童養護施設で暮らす子どもたちの生活のことや、家族との関係のこと、子どもが抱えている背景をもっと深く知りたいと思ったのと同時に、施設で暮らす子どもと深く関わっていききたいという思いから児童養護施設で働く道を選びました。

●働いて感じていることは？

実際に働いてみると、毎日毎日子どもの勢いに圧倒されっぱなしです。しかし、毎日一緒に過ごす中で、些細なことから喜びや嬉しさを感じられるとそれだけで前向きになり、「よし頑張ろう!」という気持ちになります。

あとは、厨房さんが作ってくださるご飯が美味しいことです!家で食べることより、ゆうりんでご飯を食べることの方が多く、毎日の食事が楽しみになっています!

●休みの日は何をしていますか？

私は超インドア派なので、休みの日は基本的に家でのおんびり過ごしています。気が向いたときに洋服を買いに



●最後に一言!

働いてから今日まで、あっという間に1年が過ぎてしまいました。今年から2年目。まだまだ悩んだりへこんだりする毎日ですが、1年目のときよりも子どもと過ごす日々を楽しみながら、根気よく子どもの勢いに負けないようにがむしゃらに走っていききたいと思います!これからもよろしくお願いします!

ほだか保育士

中舎 亜利沙

○ほだかで働きたいと思ったきっかけは？

乳児院で働きたい!と思ってから、自分の出来る範囲でさまざまな施設を調べました。そして、ゆうりんのホームページを見た時に、建物の雰囲気が暖かくて何よりこの広報を見た時に、子どもたちや職員の笑顔に心を打たれました。私も同じ空間で過ごしたいと強く思いました。

○ほだかで働いていて良かったことは？

子どもたちの成長をすぐ近くで見守り、子どもたちといっしょに笑ったり泣いたりできることに毎日幸せを感じています。

他にも個人的な話になってしましますが、職員同士の食事会の時には私の一発芸を披露する場を設けてもらえることです!どんな芸でも笑って受け入れてくださる職員ばかりで、そんなところが温かい職場の雰囲気に繋がっているなと思っています!そんなほだかで働けていることを嬉しく思います!

○休日の過ごし方を教えてください。

最近、オキシクリン(※酸素系漂白剤)にハマってます。休みになると何かしらオキシクリンに浸けて、見えない繊維汚れと戦っています。オキシクリンに浸けると、



●最後に一言!

私はほだか以外にも、ミニ里親として両親に協力してもらいながら家庭体験ボランティアで施設の子どもと関わっています。家庭体験ボランティアをする中で、最初は緊張していた子が何度も遊びに来ていううちに「ずっとこの家におる」と言ってくれたことが今でも忘れられません。また、本当の子どものように温かく愛情を持って接してくれる、私の両親とのやりとりにはいつも笑わせてもらっています!

必要な限り、その子にとって、もうひとつの居場所であり続けたいと思っています。

～子どもたちの未来につながる育み～

結 詞

ゆうりん前施設長 中上 純二

この度、私中上は3月31日をもって、児童養護施設ゆうりん施設長の任を退くこととなりました。

新しい領域への挑戦を決意し、関係者の皆さんに私のわがままを許していただきました。

今年度で丸6年、まだまだ施設長として道半ばではありますが、一緒に悩み、そして育ってくれた後進の力は、これからのゆうりんを、発展させてくれると信じています。

これまでたくさんの人に助けられ、ご迷惑をおかけし、またご指導いただきましたこと、忘れることはできません。本当にありがとうございました。

養育支援…仕組み化に取り組んで

「子どもに寄り添う」「子どもと向き合う」…いつも研修などで結びとされる言葉です。

ただ、その言葉で終わっていいは、私たちの専門性は深まらないのではないのでしょうか。

…どのように寄り添うことで、その子どもの支援につながるのか…

…どのように向き合うことで、その子どもの

自立につながるのか…

具体的な支援、それに伴う様々な業務を仕組み化する努力が求められるのではないのでしょうか。

仕組み化とは、支援や業務が属人的ではなく、誰が担当になっても回る、というものです。

これまで、ゆうりん職員全員で取り組んだのは、支援の具体的な仕組み作りでした。そしてそこから積みあがる様々な事例をもとに仕組みをアレンジしてきました。

さらに、「目的」と「手段」、そして「根拠」をより明確にする仕事の仕方を常に考えました。

今、取り組んでいる支援は、果たして根拠が明確か、目的はブレていないか、手段はそれしかないのか…など。援助者として支援を考える際に、いつも自問する軸でした。

実践者として

社会的養育の必要な子どもたちが幸せに暮らすことができると、願います。



私たち援助者は、評論家ではありません。コメンテーターでもありません。

一人ひとりの子どもの支援に取り組む実践者です。

だからこそ、私たちの専門性や専門職としての力量、そして組織としての在り方が問われます。

この答えには、なかなかたどり着けないかもしれません。

しかし、「子どもたちの未来につながる育み」の具現化を目指して、一人でも多くの子どもたちが、社会で生き切ることができるよう、実践者として、専門職として日々を取り組むことが求められます。

施設の子どもたちの笑顔に救われた6年でした。本当にありがとうございました。



「支援ありがとう」が溢れていました

平成30年9月1日から平成31年3月31日までに、寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。(順不同・敬称略)記載されていない方がございましたらご容赦下さい。

【個人】

河西ヒロ子 河西知子 木下福郎
須藤ヨシ子 石井祐治 高阪正春
毛受小夜子 鈴木弘茂 深川静則
石川綾子 安田訓明 佐々木やえ
早川久代 牧真吉 持橋いくよ
蜂須賀正子 角田かね 山口紘一
般木敏子 田島紀美子 西海昭延
柳谷真智子 水上脩 鈴木享 梶野弘
堀川道子 町野芳恵 仲野禮子
松山信 石井紀男 松永正子 真木芳子
増子美奈子 丸田優子 山岸せい子
宗吉美由紀 伊藤壽重 川辺清次
朝倉絹代 一杉治夫 山口実 中村彰良
山口浩導 中島光利 後藤節子
後藤雪江 紙屋祝子 中村美津子
大原誠章 深谷侑加 谷川修 秋元浩之
針山信康 深谷まみ 山口晃司
早川富雄 村里由起子 谷本美枝子
石川里恵 弓指真理子 粕谷濱夫
ジェイムス・ヘイブンス 瀬川卓也
山口和子 中島光代 倉繁慶吉 山口保
飯島将司 加藤幸男 川瀬喜世美
濱口政弘 山田宏巳 小川康一郎
金田和久 吉長敦子 阪野文明
深谷光弘 鶴見利雄 小椋寿男
穴井幸二 渡辺真美子 磯野今朝秋
入山鈴子 澤野和彦 服部美也子
福原亜や美 堀部朗代 柴橋佳幸

【団体】

谷藤沙希 小笠原祥代 畔柳まどか
寺尾法子 浅井千穂 堀尾まゆ
永谷康信 道山明子 河野綾子
山口ミツノ 久野すみ子 匿名
大高学区民生・児童委員協議会
大高学区民生・児童委員協議会
日本システム開発(株) 株名古屋食糧
サンスイサービス(株) 株井上紙店
リビングデイサービス(株) エステイケー
緑区更生保護女性会 鳴海教会教会学校
株アジャスト はの箱助成金
大高南秋祭り フラワーキャンドル
名古屋商工会議所・守山商工会・鳴海商工会・有松商工会 富士ダイス(株)
カトリック聖マリア在俗会
勝鬨寺 共同募金義援金 三ツ甚
幼い子どものゆたかな育ち応援助成
グレース・トウルースチャーチ兄弟会
ポッカサップロフード&ビバレッジ(株)
マックスバリュ中部労働組合
相談支援事業所えがお オサムファーム
こどもハートクラブ 名古屋緑吹奏楽団
マックスバリュ左京山店 サンプルト(株)
フィリップモリスジャパン
愛知県信用農業協同組合連合会
中部アニマルセラピー協会 一步の会
株さんわコーポレーション 緑鯉城会
全国シヤンメリー協同組合 名糖産業(株)
中部善意銀行 日本鏡餅組合事務局
ブライト・トゥ・ビー 小島歯科
名古屋食肉山水会協同組合 東昌寺
ベビーフード協会 ちびっこのつどい
矢守こどもクリニック(株)池田物流
ライフサポート仁科 太子学区女性会
緑区地域女性団体連絡協議会

ソロピッツアナボレターナ 圓道寺
国連支援交流協会 愛知日野自動車(株)
熱田神宮講務課(株)大野加工流通
フジトランスコーポレーション
(有)沖玉エンジニアリング 尾州商会
株ゆうち銀行広報部 株東芝中部支社
アサヒビル(株) 株日本教文社
株平成観光 KEIN 大高店 株マルト水谷
株安納スウィーツファーム りんの会
HAPPYFOREST 制服のイトウ
ヒルズウォーク徳重ガーデンズ店
株トヨタシステムズ 東亜ライン(株)
名古屋名南ロータリークラブ うぶか
日本ゼネラルフード(株) 木下大サーカス
株イー・ラーニング研究所 SHRIMP
中日本興業(株) 株MTG
株チュチュアンナ 割烹智映
株ジェイグルーブホールディングス
日本特殊陶業(株) 親切会中部支部
東海テレビ福祉文化事業団 東洋軒
六花界 BOND OF HEARTS エレゾ
テストキッチンH 銀座やまの辺
株木曽路 中部楽器技術専門学校
名古屋緑ライオンズクラブ ゼンユー
名古屋名南ライオンズクラブ
名古屋東山ロータリークラブ
愛知県共同募金会 緑区社会福祉協議会
大高北学区民生委員協議会 霊友会
大高南学区民生委員協議会 南山大学
愛知県社会福祉協議会 麵屋OKぼく場
(有)ダスカジャパンクアウテモツク
カーブスフールドライヴ ぐるーん
中京大遊びグループ 名古屋熱田ロー
ターアクトクラブ エイトデザイン(株)
大高小学校PTAおやじの会
炭火焼き鳥とりこ セカンドハーベスト
東海医療科学専門学校 おもちや病院
中央有鄰学院ひとりひとりを支える会

COLUMN

住む家や人が変わるといことは、これまで当たり前だったことが、当たり前じゃなくなるといことです。今まで良しとされていたことがそうじゃなくなるといことです。その逆もまた然りです。

施設や里親宅で生活する子どもも同じです。環境や常識が大きく変わることで相応の負荷がかかります。今までの当たり前が通用しない世界に足を踏み入れることになるので、受け止める側としては、そういった背景も頭に入れておかなければなりません。

例えば、自分の常識と大きくかけ離れた言動があったとしても、「この子は今までのどのような生活をしてきたのかな」と一呼吸おいて慮る必要があります。

“イスに座って食べる”というひとつとっても、当たり前ではなかったりすることもあります。そういう場合は、いきなり「ちゃんと座って食べなさい！」と言っても当然難しいわけです。しつけの前にはやらなければならなことがあるわけです。

養育者にとって大事なことは、どのような方針でやるかということよりも、自分がこだわりを持ってやるということが、子どもにとって相違きつことになるかもしれないという「自覚」を持つことなんだろうと思います。